



テーマ

誰もが暮らしやすい地域って何ですか？

前回（11月19日開催）の地域円卓会議で話題に上がった「多様性」「寛容」をキーワードに、福祉的な視点を共有しながら「誰もが暮らしやすい地域」について考えます。

*福祉の視点を通して「地域のあり方」を考える会です。「福祉のあり方」を考える会ではありません。

【実施報告書】

香川の次世代を考える地域円卓会議

「誰もが暮らしやすい地域ってなんですか？」

日時 | 2023年2月18日（土）14:00～16:30（13:30 受付）

場所 | 高松市ヨット競技場大会議室（高松市浜ノ町67-1）

主催 | 特定非営利活動法人わがこと

協力 | 一般社団法人全国コミュニティ財団協会

後援 | 高松市、香川県、高松市教育委員会、香川県教育委員会

【報告】 香川の次世代を考える地域円卓会議
「誰もが暮らしやすい地域ってなんですか？」



日 時 | 2023年2月18日(土) 14:00~16:30 (13:30 受付)

場 所 | 高松市ヨット競技場大会議室 (高松市浜ノ町67-1)

話題提供 | 5名 (ゲスト、進行、含む)

記 録 者 | 1名

来場者数 | 47名 (行政、企業、自治会等地域組織、NPO・市民団体等、教育機関、自営業、その他)

主 催 | 特定非営利活動法人わがこと

協 力 | 一般社団法人全国コミュニティ財団協会

後 援 | 高松市、香川県、高松市教育委員会、香川県教育委員会

* 情報保障のため、同時手話通訳を手配しました。

登壇者



越智 萌さん



多田 周平さん



藤澤 茜さん

司会・記録

大美 光代(特定非営利活動法人わがこと 代表理事)

竹内 栄作(特定非営利活動法人わがこと)

記録 藤澤 美江(地域づくりチャレンジ塾 第9期塾生)

■セッション①では、登壇者それぞれの視点から「地域の暮らし」について、9つのキーワードをもとに対話を行いました。来場者からの質問も多くいただき、登壇者のみなさんに回答をもらいました。

<登壇者>

越智 萌さん (NPO 法人丸亀街づくり研究所 アフターケア事業所わっかっか)

多田周平さん (株式会社サニーサイド 代表取締役社長)

藤澤 茜さん (スクールソーシャルワーカー)

9つのキーワード

- ・誰もが安心して暮らせる地域ってなんですか？
- ・多様性を受け入れるって結局どういうこと？
- ・制度でカバーできないことってある？
- ・働く場と人を繋ぐってどうやってやってるの？
- ・私だけが知っている (かもしれない) 地域の姿
- ・私が地域で担っている役割
- ・「安心」の構成要素は？？
- ・アドボカシーってなんですか？
- ・学校の子どもの様子ってどうなの？

事実の共有

- ・香川県内のマイノリティの割合増える (障がいをもっている子、LGBTQ の子)
- ・「どんなひとがいてもいい」が当たり前でない社会
- ・障がい者手帳をもっていないけど生きづらさを感じている若者がいる
- ・制度でカバーできないことはたくさんある
- ・子どもが怒りもないくらい諦めてしまっている
- ・アドボカシーは子どもが自分の人生に参画するお手伝い
- ・懲戒権がなくなった

視点の共有

- ・マイノリティの子はマイノリティでない (いるのが自然) 未来
- ・マイノリティの子がいることが当たり前の社会がつくれてない
- ・学校をでた後の居場所は会社
- ・障がいではなく向き不向き個性本質で仕事
- ・カテゴリー・ラベリングは不要
- ・その人を理解することが重要
- ・福祉はみんな必要で特別な人のためではない
- ・ワードに対するイメージを共有するための対話が必要

- ・ カテゴリー分けを疑うことも必要
- ・ いろんな選択肢（特別支援学級等）を提供して本人が決める
- ・ 職場で役に立っていることが重要
- ・ しつけ・指導と多様性について主体性を尊重する

■セッション②では、会場のメモを参考に、「『誰もが安心』に足りてないものは？」「こんなことがあればいい」について対話しました。以下は、来場者が書き留めたメモを原文そのままに書き起こしたものです。

「『誰もが安心』に足りてないものは？」

<ソフト>

- ・ 自分自身の心のバリアフリー化
- ・ 大丈夫だと思える事例や情報発信
- ・ コミュニケーション
- ・ 相互理解
- ・ 「誰もが」という見方や考え方
- ・ 心理的安全性
- ・ 失敗を容認する社会
- ・ 個人情報保護が先行しすぎて近所つきあいが希薄化している
- ・ 発達障害やLGBTなど最近になって取りあげられ始めた言葉はあったほうがいいのか？
- ・ 心理的安全性を保障してくれる居場所、コミュニティなどの不足
- ・ オフラインでの出会い
- ・ 困りごとを表明できる相手不足
- ・ 疎外されている人への率直な理解
- ・ 大人同士のつながり対話
- ・ 正しい知識
- ・ 専門家を配置
- ・ 子どもへの情報、視野、経験、場所
- ・ ご近所さんとのコミュニケーション
- ・ 子どもの意思が親とぶつかった時の助けてくれる大人
- ・ ネットワーク
- ・ 多田周平さんの会社もっと増えれば Good
- ・ 「私はひとりじゃないんだ」と実感できること
- ・ 他人を慈しむ気持ち
- ・ 本音でのつきあい
- ・ 「聞こえない人」その言葉のイメージに対する意味の理解
- ・ 人とのつながり
- ・ 自分の個性をのばす見つける場や体験

- ・未来の見通しがたたないわからないことが不安
- ・身近な誰かに興味を示し困っている誰かがいたら手を差しのべられる人の心の余裕
- ・あらゆる世代の人の数
- ・偏見と差別をしない視線視点
- ・「〇〇のことで困っている」という時にすぐ答えてくれるコミュニケーションのようなもの
- ・地域のつながりがあること
- ・情報がすぐにかんたんに入手できること
- ・子どもの頃に障がいのある人との関りを持つ
- ・「今」と対応してくれる
- ・お互いの認知
- ・隣近所に住む人たちとフラットに話し合うこと
- ・いろいろの困ったときにタイムリーに相談できる場
- ・子供の自由親の余裕
- ・高率さを（正解を）追い求めすぎない心
- ・既存の制度や仕組みから外れるニーズを拾っていく地域の体制と人
- ・世代間の理解、交流の機会が足りていない
- ・孤立をしている人に気づける機会が少ない
- ・子どもでなく大人でない若者の選択肢
- ・他人への理解

<ハード>

- ・つらい時に逃げ込める場所
- ・学校以外の子どもの居場所
- ・親が気軽に相談できるところ
- ・正解のない状態でも話ができる場
- ・大人が学べる場
- ・多様性について子どもに分かりやすく伝えたり、体験できる場
- ・悩みなどを相談し個性を受け入れてくれる場
- ・ゆるやかな働き方ができる職場
- ・共感できる人同士が集まれる場
- ・世代の違う人がつながれる場
- ・いろいろの困ったときにタイムリーに相談できる場
- ・移動手段
- ・すぐ近くの居場所

「こんなことがあればいい」

<ソフト>

- ・自分のやりたい事のお手伝いやアドバイスを頂ける機関
- ・地域で年代関係なしのネットワーク作り
- ・カテゴリーをなくす
- ・平時からのつながり
- ・ネットワーク つながると生み出される
- ・周りに目を向ける心のよゆう
- ・その人がしたいことが実現できる
- ・「おたがいさま」「おかげさま」の相手の感謝と思いやりの心
- ・都会地方都市田舎どこの生き方が自分にあっているか知ることができるかんきょう作り
- ・ルールから外れても楽しめるルール
- ・小さい頃からのカテゴリー分けをなくす！
- ・敷居のひくさ
- ・地域の祭り等地域の人が集まるイベントの継続
- ・お年よりの方が元気に参加しやすい地域社会のしくみ
- ・地域の方への語りかけ
- ・情報を広める伝える
- ・情報で若者を守る
- ・弱者をはいじよせず他者を理解する心をもつ
- ・知る機会ががんばらなくても知れる機会
- ・ソーシャルキャピタルの形成
- ・知識の創造
- ・地域住民同士のつながり
- ・だれひとりとして孤独にしないこと
- ・いつも笑顔
- ・特別支援学級なんてなければいいのに
- ・ビジネスとしてコーディネートできる仕組み
- ・多様な人たちと関わる機会
- ・他人とフラットに話し合える場仕組み
- ・なんでも話せる人
- ・障がい者ジョブコーチを増やす
- ・余裕ある心
- ・問題に直面している実感体験する機会があればいいな
- ・気軽に話し合える人
- ・スピーチコンテスト
- ・わかってくれる人
- ・バイヤスのアップデートするツール

<ハード>

- ・親御さんへの「情報」提供 気づきの場
- ・病気やけがについて正しく、わかりやすく教えてくれる場所があってほしい
- ・まず大人が何でも話せる場
- ・インクルーシブな学校
- ・みんなで学び合える学校
- ・小さいうちから多様性について学べる場をつくってほしい
- ・今回のような課題を考える場
- ・多少どういんでも対話ができる場所
- ・他人を知る最初の一步の場所

全体を通じてのキーワード

- ・「寛容」「受容」「多様」(前回より)
- ・カテゴリー ラベリング
- ・安心
- ・おせっかい
- ・福祉という言葉への違和感
- ・「特別にしない」という風土と環境

【参加者アンケート集計】 香川の次世代を考える地域円卓会議

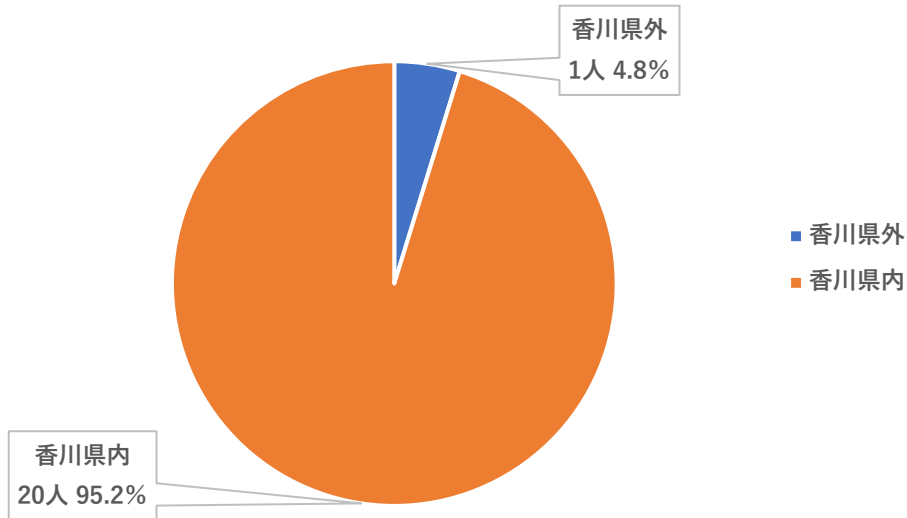
日 時 | 2023年2月18日(土) 14:00~16:30 (13:30 受付)

場 所 | 高松市ヨット競技場大会議室 (高松市浜ノ町67-1)

着席者数 | 5名 (ゲスト、進行、含む)

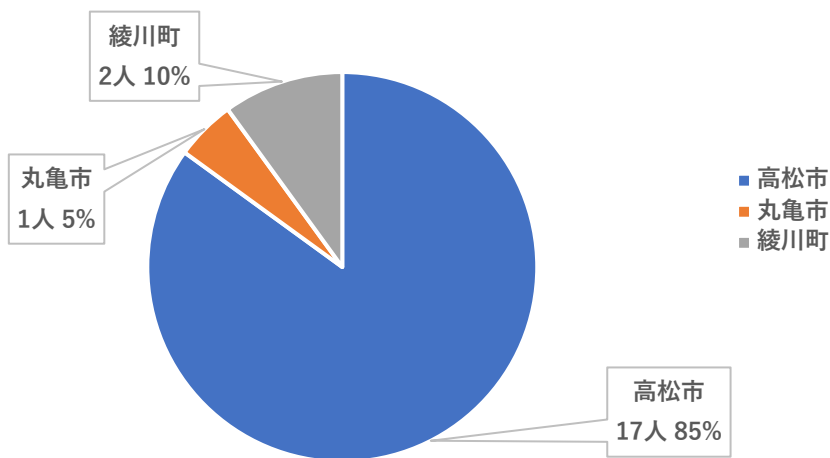
来場者数 | 47名 (アンケート回収21名、回収率44.6%)

どちらからご参加いただきましたか。(N=21)

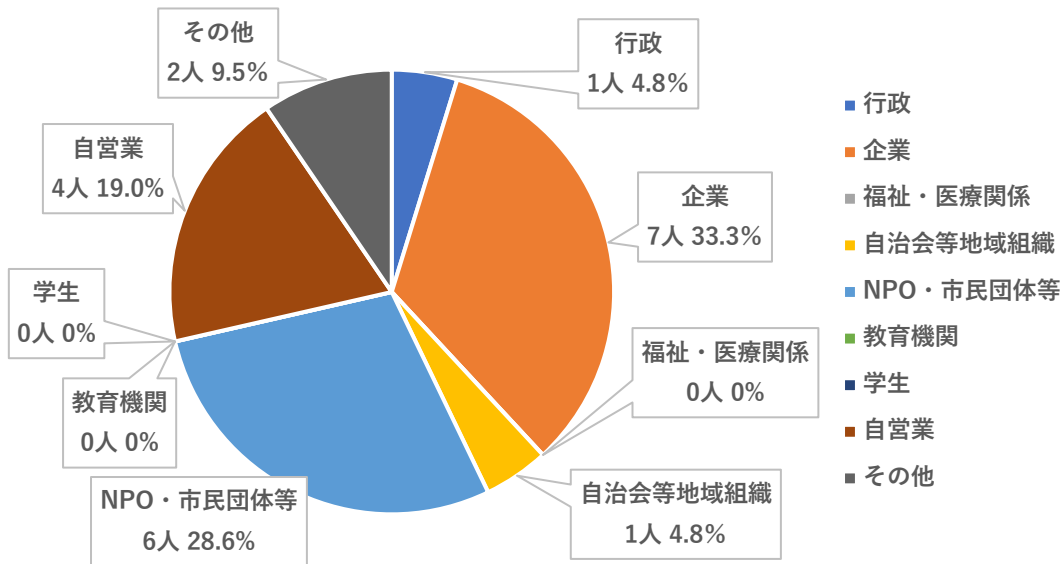


「香川県内」の方は市町名を教えてください。

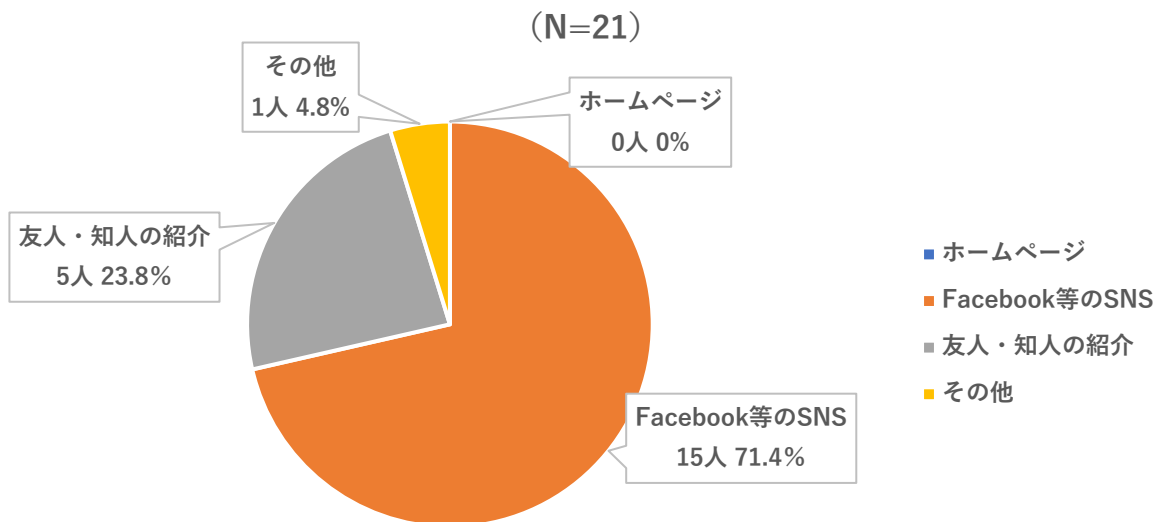
(N=20)



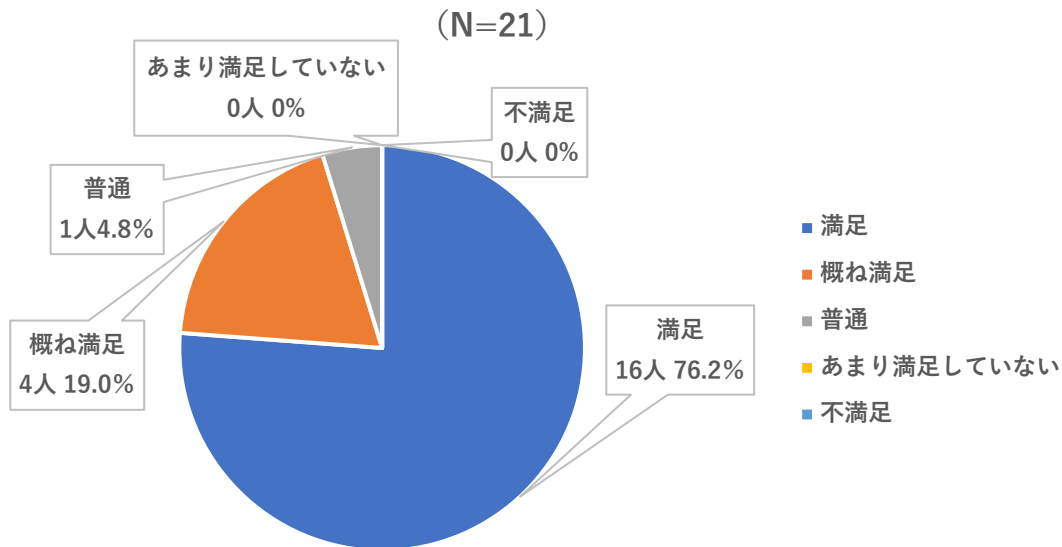
所属する組織や団体を教えてください。(N=21)



本日の地域円卓会議をどちらでお知りになりましたか。(N=21)



本日の地域円卓会議に参加しての満足度をお聞かせください。



上記の満足度を選択した理由をお聞かせください。

- ・ 普段自分からは関わらない種類の会合で多様な意見や考えを聞くことができたため。
- ・ 知らない分野の話が聞けと機会だったから。
- ・ 気になることをいろんな立場の方の話を聞ける。
- ・ パネリストのみなさんのトークが柔軟で掛け合わず中でテーマに対して奥深い思考が広がっていったから
- ・ 3人の方、それぞれの立場からのお話が今の自分にとって非常に為になった。グループで様々なコミュニケーションをすることで自分の考えも深めることができ、初めての方とお知り合いになることができた。
- ・ 現場のリアルなお話が聞けたこと
- ・ 色々な人にあいました～
- ・ 講師の話も素晴らしい上に、グループ討論もできて学びが深まったからです。
- ・ 現場で活躍する方の生の意見を聞いた事と多様な意見を集約して進行していただくにつれ、自分自身の思考の整理になった。
- ・ カテゴリーの違和感に関しては今日の話とは少しズレたところで持っていたので、今日の話聞いて少しだけ腑に落ちました。また、目の前の人をそのまま受け入れる姿勢や、行政や地域弾として、個人として、支援をするのであればどの様なことをしていけるか。その方向性や視点を学ばせていただきました。
- ・ 香川県の将来が見えてきて、今から私たちが何すべきか考えさせられました。
- ・ 登壇者（着席者）の3名の方のお話がすはらしかった。

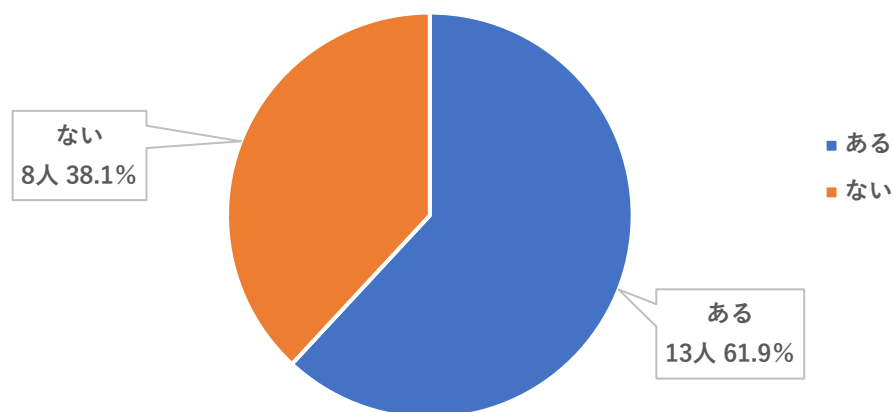
- ・ゲストの方のお話がすごく面白かった
- ・どのゲストの方のお話もなるほどと思う視点が多く、新しい視点をもらいました。ただ、「福祉を考える会ではない」とは言いつつ、どうしてもその方向からの考えに縛られてしまいました。
- ・新しい考え方や知識を知られた
- ・同調性、協調性の重要さを主張する側の人がいるともっと深まった気がします。
- ・良い参加メンバー
- ・参加者の気持ちが伝わった感がありました。
- ・地域の現状がわかったことと、顔見知りができただから
- ・はじめての参加でしたが、登壇者のお話は貴重な視座となりました。
- ・こども若者のことを考えて、自分にできることは？地域で出来ることは？と考えている人があんなにいることに希望を感じました。

本日の議論の中で、印象に残ったこと、良いアイデアだと思ったことがあればお聞かせください。

- ・多田さんの事業において、社員のカテゴライズを意識していない(しないようにしている)というのが印象的。カテゴライズしたところでその中でも個人差があるので本来意味のないこととも言えるが、カテゴライズする習慣が染み付いてるのでゼロベースで考えないといけないと感じた。
- ・知ることが安心につながるは、本質だと思いました。財団からの融資を受けて、その団体やグループの活動報告を通して、地域の人たちは課題や不安を知れる機会になる。そのような循環の役割を財団は果たすだろうな、と思いました。
- ・それぞれが今日感じたことを持ち帰って行動にうつす。
- ・クロストークよかったです。
- ・多田さんのお話の中で、1人ひとりが輝けるように、その人にあった仕事ができるようにする、ということ
- ・ここだけの話
- ・真ん中の人らが恥ずかしそうなのが印象深い
- ・全てがよかったです！
- ・バイヤスとの付き合い方に苦労しているのは私だけではない事が最後に垣間見れてよかった。
- ・今日の会場に障がい者が5~6人いないとおかしい。商店街で100人とすれ違っても、LGBTqの人に5人合わないのはおかしいんだっていう考え方には衝撃を受けました。また、グループワークの時に、貧困を抱えている方のプライドを尊重するという話を聞きましたが、今まで考えたこともない視点だったので今後は肝に銘じたいと感じました。
- ・多様性を理解し支え合うことが地域では必要になってくる。学校だけではなく、企業の視線でも考えていかななくてはならない。
- ・多様性とは、ボーダレス、シームレスであること。
- ・言葉の持つ個人個人の認識の違い。社会のあり方の不自然。
- ・発達障害やLGBTなど少数派と言われる方は左利きやAB型の人と同じくらいの割合いるという話を聞いて、昔は左利きが良くないとされていた風潮が今はほとんどないように、少数派を当たり前として受け入れる世の中になっていくのが理想なんだろうなと思いました。

- ・多田さんのようにビジネスでちゃんと雇用を生み出している事に驚きました。補助金をもらってないの？！
- ・「大人たちこそ、ご自愛ください」
- ・途中退席のため
- ・登壇者の発言がとてもナチュラルで好感がもてました。
- ・近年、社会的弱者が可視化された話が印象に残りました。
- ・ゲストの多田さんがおっしゃっていた「若者たちが県外へ出て行きつつあり、障がい者の割合は一定数あること」。そういったなかにおける雇用については、どの企業も真剣に向き合わなければならない課題だと考えました。
- ・多様な課題を解決するために、多様な解決策が必要であること。

コミュニティ財団という名前は聞いたことがありますか？
(N=21)

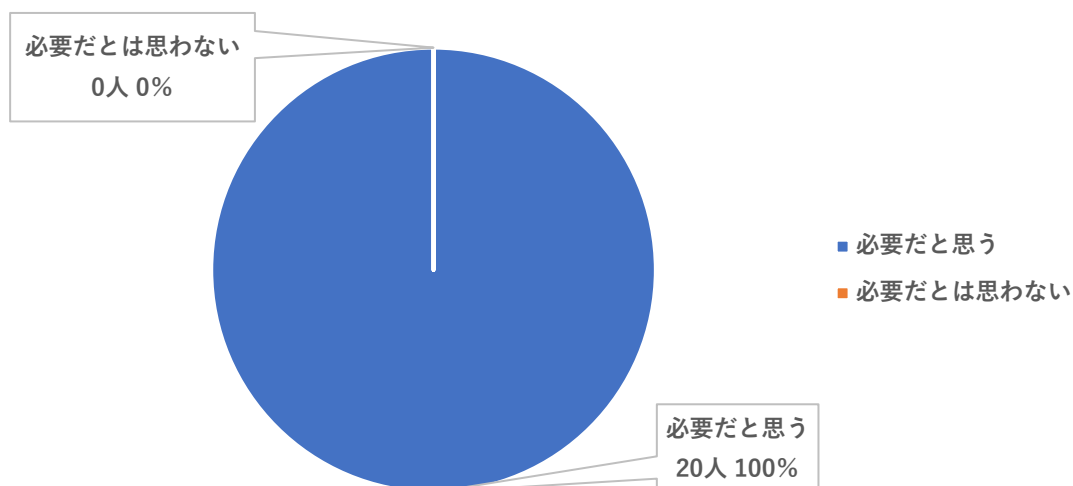


コミュニティ財団の説明をさせていただきました。率直なご感想を聞かせてください。（「よく分からない」「興味はある」等でも構いません。）

- ・出資するか否かの判断基準ってどうするのかなーとふと思いました。
- ・詳しい事例など知りたいです。
- ・今日は少しだったのでよくわからなかった人もいるかもしれませんね。
- ・魅力的な仕組みだと思う。
- ・もっとよく知りたい調べてみます
- ・名前だけ看板だけの公的機関もアルアルせっかく民間なので無名なのにやることデカいやろ？ぐらいな勢いで頑張ってみてください。

- ・とてもいい試みだと思います。
- ・興味があるので具体的に聞く機会があれば…Instagram ライブなど…
- ・とても意義のある活動だと思います。自分の地域でも、いつかその様な形のを築けたらと思っています。
- ・興味ある
- ・参画したい
- ・すごく大変だと思うけど、ものすごくいいことだと思う。頑張ってください。
- ・今ある繋がり外の外にいる人たちに認知を広げていくのが難しそう
- ・僕たちが具体的にどのようなお手伝いができるのかを知りたい
- ・よく分からない。(内容の説明がほとんど無かったので)
- ・興味がある
- ・現在の社会で必要な事でできていない事について、適材適所でつながれる体制づくりができると良いですね。
- ・理解しました。
- ・非常に興味深い取り組みと考えています。一方で、民間の組織が市民から託されたお金を使いながら地域の課題に向き合っていく際の透明性というか、数多くの課題があるなか、ある特定の課題に取り組む意義というか大義をどう見出して、支援者や他の課題を抱えている人にどう納得してもらいながら進めていくのかが気になりました。でも、そこを丁寧にやろうとすればするほど、行政と変わらないスピード感になってしまうのではないかと考えます。まだまだコミュニティ財団の詳細を詳しく理解できていないままの感想ですのでご容赦ください。
- ・楽しみです。

コミュニティ財団は必要だと思いますか？ (N=20)



上記の回答の理由を教えてください。

- ・カテゴリーや行政のルールでは解決できないものを相互扶助の精神で解決できる機能となりそう。
- ・お金をだすスピード感は大事だと思うから。
- ・お金がまわる仕組みがないと良い活動でも継続できない。
- ・草の根でやっている地域の活動を支える仕組みがない。そうした仕組みを遠いところではなく、ごく近いところで応援できること、そして支援した成果が、頑張っている人の姿が近くに見えることが継続して応援したいムーブメントにつながり、そうしたムーブメントが結果的に小さくてもコツコツ地域を耕していくと思うから
- ・支援団体と地域とを結ぶ仕組みを市民の皆さんから近い立場というところから、地域の暮らしをよくするためにたくさんの方がかわり、活動していくことはこれから特に重要だと思う。
- ・大美さん（わがこと）がすることだから
- ・機能する財団は歓迎されます
- ・わがことさんが広めていくことは地域の希望よ光だと思うから。
- ・自治体、NPOなどが介入出来ない隙間に可及的速やかに対応出来そうだから。
- ・お金の集めやすさ、支援のし易さ、相談のし易さ。その3点から考えても、企業や行政がするよりもメリットのある事だと思います。
- ・地域の中での人とのつながりの場が必要だから、それがあってによって、繋がりができ、情報が入りやすいから。
- ・自助と公助が行き詰まりを見せるなかで、新しい共助のかたちをつくることで、自分たちの地域課題の解決に少しでもつながるかもしれないと思うため。
- ・市民活動において、精神的応援と具体的な支援はものすごくありがたいと思う。
- ・まだよくわからないというのが正直なところです。でも融通の効かない補助金が無駄に使われてしまうより、本当に必要なところ、必要な人に適切に届く仕組みならいいなと思います。
- ・良いものはなんでも作った方がいいと思うので
- ・内容が分からないので・・・
- ・活動する資金は必要
- ・コロナ禍で、コミュニティが全体的にコロナ禍前に希薄になっており、コミュニケーションが取れる場所での交流が減っていたり、機能が十分でない気がしています。
- ・行政でも企業でも目の届かない課題は山ほどあり、第三の存在としての財団の存在意義はあると考えるから。

メッセージ

- ・今回の開催に先立ってコミュ財団という言葉をはじめて知り、会議を聞いてその必要性(意義?)を感じたので、設立を応援しています。
- ・第一回目より、議論の内容が目的に対してより具体的な議論展開になり、議論として生き生きしていた気がしました。また他のスタッフさんのおひとりおひとり役割をこなす姿から、その方々の主

体性も感じられて、議論の場としての雰囲気も良かったです。議論運営を何度も重ねられ、反省と改善を繰り返された感も伝わってきた回でした。とても良い時間でした。お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ・とても有意義な場でした。他の参加者ともっと話し合い、交流できる時間もほしいと思いました。ありがとうございました。
- ・今日もお疲れさまでした。わがことのみなさんのチームワークを感じました。片付けを誰からともなく手伝っていたのはよかったですね。
- ・どんな風にしていけば、みんなが幸せになっていけるのか、これからも自分の活動を通して考えていきたいと思います。今日は、大変ありがとうございました！
- ・次回も楽しみ！
- ・闘う、競い合うのではなく「高め合う」というのをキーワードに地域に関わる人はチームを作ればいい。現実には世襲やら前例踏襲主義やら慣習やらに縛られまくるけど。
- ・途中から3人の講師の方がワンピースのルフィに見えました。枠にとらわれない自由な人だからこそできること、それらの人とコラボするわがことさんに無限の可能性を感じました！
- ・わがことさんが地域の希望の光だと確信できましたし、これからもどうぞよろしく願いいたします。高松だけにとらわれず、高松からかがわや社会や日本を変えていく光だと思いますので、広い視野で一緒におともさせて頂ければです。
- ・回を増すごとに会場熱くなりますね。異業種の方との座談会は、自分自身の見聞を広げてくれ気付きにつながります。色々な所で多種多様な課題解決の取組に横串いれて点を線で繋ぎ、面で広げていってくれるわがことさん。コミュニティ財団のフィールドで同じ景色を見れる機会があれば嬉しいです！
- ・貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・お疲れさまでした！次回も楽しみにしております！
- ・自分自身の視野を広げるいい経験になりました。ありがとうございました。
- ・円卓会議自体はとても良い時間だったのですが、「誰もが」「安心」というのが漠然としていて、何をどの視点から考えればいいのかちょっとわからなかったです。（福祉にまつわる話を聞いたあとに、福祉について考える場ではないと言われたから余計に）前は違う視点の会議だったと思うので、いろいろな方面からの世の中の現状を知れたらいいなと思いました。
- ・竹内栄作！がんばれ！応援してます！
- ・財団とは言え、資金支援内容の基本ルールとして公共性、公平性は必要だと考えます。
- ・このような場を作っていく意味を感じています。地方色あふれるコミュニティが関わる方々で作ってけると良いですね。
- ・参加させてくださりありがとうございました。
- ・どこまでできるかは分かりませんが、公私共に今後も応援させていただきます。

【当日の様子】

香川の次世代を考える 地域円卓会議

2023. 2. 18

誰もが安心して暮らしやすい地域とは何か?

“多様性” “寛容” キーワード

香川県の現状と未来

カテゴリー化の結果を顕在化?!
カテゴリーは増えず

10年間で
人口 **右肩さがり** \downarrow **12%** (県全体)
子どもの数 **右肩さがり** \downarrow

障害をもつ児童 特別支援学級の生徒 \uparrow **200%**
発達障害 **6.5%** 知的精神障害 **8%** **LGBT 10%** 中学生の不登校 **5%**

学校出れば会社へ
社会問題解決して対価得る

いわゆる弱者支援必要なんって
マイノリティじゃない

身近で **メジャー**

出会ってない方が **不自然**

いろいろな人がいていいやん

あたり前が

あたり前でない

腫れ物に触るような扱い

受け入れられないのでは...

共有しにくい

受け入れの場所 **会社必要**

福祉って...

社会の人のイメージ **重度の人**

特別な人がする仕事 じゃない!

行政の制度: **枠組み** 多すぎ...

対象じゃない人 どうするか
学校にシワよせてるような...

多田さんの会社 増えたいのに...

カテゴリー・ラベリング 不要

★ サニーサイド 専用の仕事ない! 細分化して出来ることさがる

支援

困ってるからやるだけ
頑張ろうとしてるから
一緒にやろう! だけで
“支援” と思ってない
目の前の人 みるだけ

もっと **共通認識** が **必要!!**

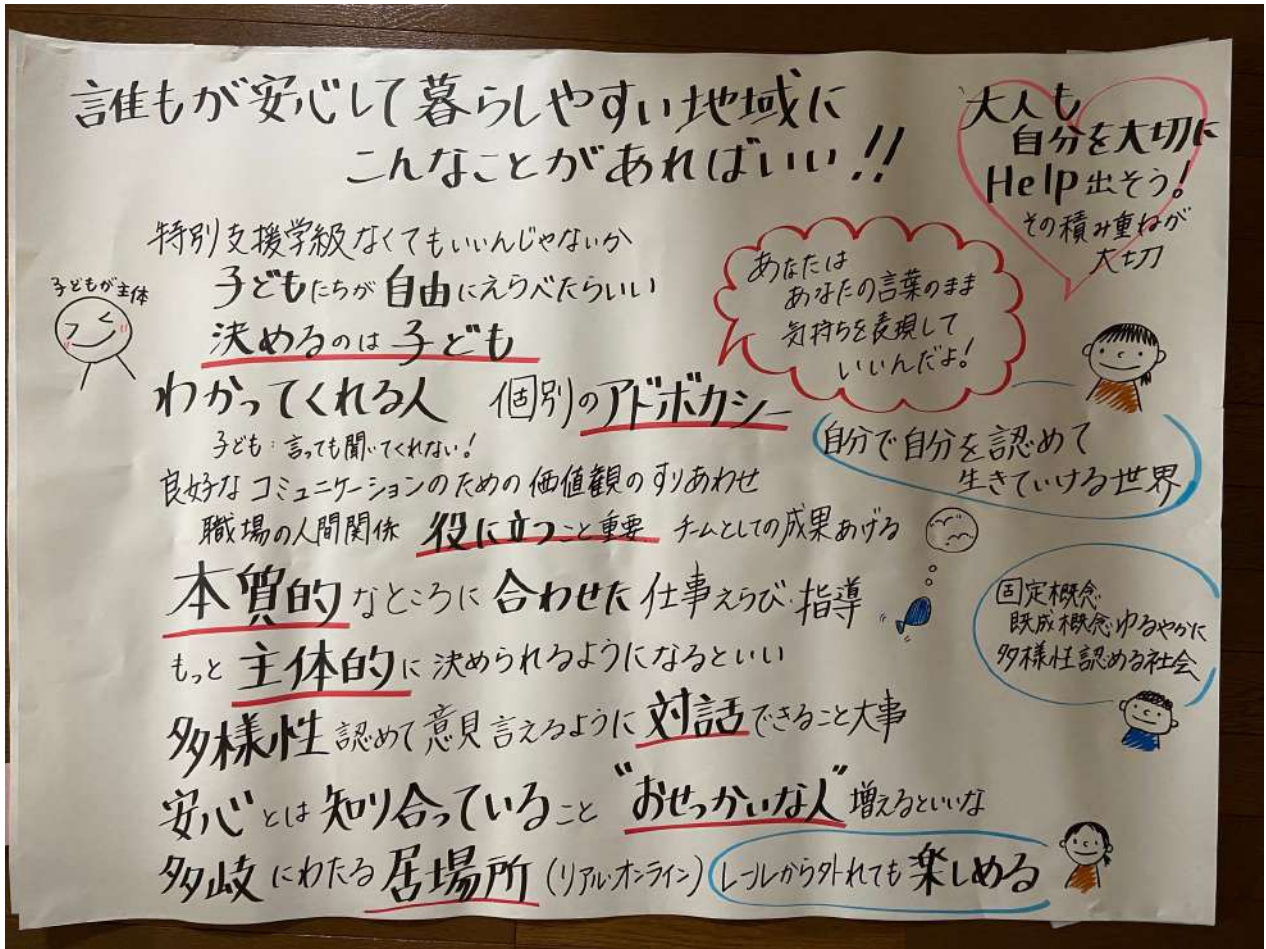
“誰もが安心” に足りてないものは?

カテゴリー分けしてやりっぱなし... あるかも
安易に論断されているかも... その後どう行動するか
周囲がどう支援するか
論断受け、カテゴリーに分けた後年齢を切れるサポートの制度

おせっかいな人... 制度とかカテゴリーを
平均をぶっオネしてる人

多様性としつけ

児童福祉法改正で
懲戒権が削除された
しつけ **禁止** になった



【メディア掲載】

- ・毎日新聞 2023年2月28日（火）朝刊掲載
- ・毎日新聞WEB版 2023年2月22日（水）掲載（Yahoo!ニュースにも掲載）